

A woman with blonde hair, wearing a black wide-brimmed hat and a red sleeveless dress, is looking off to the side. She is standing on a large, messy pile of discarded, crumpled clothing in various colors. The background is a solid light pink color.

ファストファッションを、
もっとスローに

TIMEOUT FOR FAST FASHION

GREENPEACE

ファストファッションの隆盛

衣料品の売上は、2002年の1兆ドルから、2015年には倍近い1.8兆ドルに伸び、2025年までに2.1兆ドルに達すると予想される

2000～2014年の間に衣類の生産量は倍増
2014年までに衣料品の点数は1000億点を超えた

15年前と比べ、購入する衣料品の数は一人当たり平均60%増加したが、手元に置いておく期間はおよそ半分になった

世界全体で流通する古着の量は430万トンに及ぶが、その多くが再び着用されることはまずない

2000年以降、H&MやZaraの台頭で、ファストファッションが「爆発的な拡大」を遂げる



1995

2000

2015

2025

ファストファッションを、 もっとスローに

ファストファッションの生産と消費の拡大

手軽で最新トレンドをいち早く安価に取り入れられるファストファッションが現れ、人々の服装は様変わりした。衣服に対する考え方や扱い方も変わった。かつてないほど大量の服を買う一方、着回す回数は少なくなり、一度も着ることのない服もある。ワードローブには新品同様の服が溢れているにもかかわらず、私たちは服を使い捨て商品のように扱っている。ファッションは目新しいだけのトレンドと化し、その商品化とマーケティングによって過剰消費と物質主義が広がっている。自分の服を大事に着続けるというのは、今の流行ではない。

ファッションの小売業者は1980年代以降、流行の移り変わりを加速させ続け、服が使い捨てられるペースはどんどん速まっている。1992～2002年の間に、一般消費者向け製品のライフサイクルは半分になった¹。しかし、今のファストファッションブームが本当に始まったのは、21世紀に入ろうという時期のことだ。この頃、ZaraやH&Mといったブランドが、流行の移り変わりをさらに加速させることに成功したのである。両社とも、2000年以降「爆発的な拡大」を遂げ、世界最大規模のファッションブランドとなった²。この二大ブランドや他社が推し進める「ファストファッション」は、格安商品や定番商品も含め、あらゆる衣料品の消費を増大させている³。

伸びる売上、増える量

衣服の消費量の増加に伴い、すでに最大の汚染源の一つとされている繊維産業による影響が拡大しつつある。現在、先進国に住む人々は、実際に身につけるよりはるかに多くの衣料品を所有している。そし

て、中国とインドがこうした危険な傾向に追従している中、消費される衣料品の絶対量はさらに増加する可能性がある。

衣料品の売上は、2002年には1兆ドルだったのに対し、2015年には1.8兆ドルまで伸び、2025年までにさらに増加して2.1兆ドルになると予想されている⁴。2000年から2014年までに衣料品の生産量は倍増し、それに伴い大量の原料が使われた。15年前と比べると、購入する衣料品の点数は一人当たり平均して60%増えた一方、手元に置いておく期間はおよそ半分になっている⁵。当然ながら、このような過剰消費の広がり方には世界で偏りが見られる。2014年に購入された新品の服の重量で比べると、北米では一人当たり平均16キログラム（Tシャツ64枚またはジーンズ16本に相当⁶）だったが、中東・アフリカではわずか2キロだった⁷。中国では、一人当たりの消費量はすでに6.5キロに上り、世界全体の平均5キロ/人を上回っているが、2030年までに11～16キロまで増える可能性がある⁸。一人当たりの消費量が変わらないとしても、中国やインドといった国々での人口の増加を踏まえると、衣料品の絶対量は増え続けるだろう。

ファストファッションの流行に拍車をかけているのが、衣料品のオンライン販売の急激な伸びである。米国では、2016～2017年の間に17.2%の成長が見込まれている市場だ⁹。中国は、2014年に米国を抜いて世界最大のデジタル市場となったが、ファッションについても、ネットショッピング部門でトップとなっている¹⁰。オンラインで服が買えるという手軽さから、購入回数が増え、ファストファッションの売上高を押し上げていると考えられる¹¹。

ファストファッション：汚染にまみれた生産現場から、流行の最先端、そしてごみ箱へ



環境への懸念 — 衣類のデトックスが不可欠であるにもかかわらず十分でないワケ

ファストファッションの消費は、温室効果ガスや有害化学物質、衣類の廃棄物を吸収する地球の能力の限界を押し広げると同時に、水や土地などの資源を枯渇させつつある。この状況は、あらゆる点で持続可能ではない。

「ファストファッションは今や、大規模で最先端の事業でありながら、その基盤となる生産システムはバラバラで、概して手作業に頼っている。このシステムは、環境にも多大な影響を及ぼすものだ。衣料品の生産は通常、大量の水と化学薬品を必要とし、相当量の温室効果ガスの排出を伴う。さらに、低賃金で、命が脅かされるほど危険な労働環境の衣料品工場働く労働者に関する報告も、いまだに後を絶たない...」¹²

現在も続いている「もっと安く作って売る」という競争で勝つために、繊維産業は、人件費が安く規制が緩い国へと拠点を移している。たびたびメディアで

取り上げられ、NGOがキャンペーンを打ち出しているにもかかわらず、そうした国々のサプライヤーは、限界を超える負担を強いられ、有害化学物質による河川の汚染や、容認しがたい労働条件、児童労働など、環境や社会に重大な影響が及んでいる。

2011年に開始したグリーンピースの『デトックス・キャンペーン』では、こうした環境への犠牲を食い止めるために、ファッションブランドや大手小売業者、繊維製品のサプライヤーを含む78の企業が参加し、2020年までにサプライチェーンの全工程における透明性を高めるとともに、有害化学物質の排出ゼロを目指して取り組みを進めている。ノニルフェノール・エトキシレート（NPE）に関する規制がない国から輸入された衣料品からは、NPEをはじめとする有害化学物質が検出されており、それらは衣類の寿命期間中の洗濯によって完全に洗い流され、水環境に流出する可能性があると考えられる。2011年には、英国だけで最大173キログラムに上るNPEが水環境に流出した可能性があるとして算出されている¹³。この化学物質は、デトックス宣言をした企業によって徐々



古着は処理されたのち出荷される

大量の古着

ファストファッションの店舗

不要となった服は、圧縮されまとめられる

米国では、一人当たり64点のファストファッションブランドの服を購入（2013年）

商品をリサイクルして輸出する：2014年には430万トンの古着が流通した

になくなりつつある。しかし、「より大量に、より安い服を」という傾向が続けば、業界全体の生産と消費が加速し、有害化学物質をなくすための取り組みによる進展を追い越してしまうだろう。

「繊維産業が世界最大の汚染産業に数えられる」もう一つの理由は、エネルギー使用量が多い点にある¹⁴。世界全体の生産に伴うCO2排出量のおよそ3%（年間8億5000万トン超）は、製造、物流、洗濯・乾燥・アイロンがけといった、衣服の購入と使用に起因する¹⁵。

ファストファッションの拡大は、ポリエステルの使用量の増加なくしてあり得なかつただろう。ポリエステルは、比較的安価で手に入りやすく、今や私たちの着る服の60%で使われている。2016年に衣料品に使われたポリエステルは約2130万トンで、およそ830万トンだった2000年に比べると157%の増加だ¹⁶。ポリエステルへの依存によって、ファストファッションの環境への影響は増大している。ポリマーの生産に必要な化石燃料を勘案すると、衣料品に含まれるポリエ

ステルに関連するCO2排出量は、2015年には2820億キログラムだった。980億キログラムだった綿と比べると、三倍近い排出量ということになる¹⁷。さらにポリエステルは、難分解性の素材だ。衣服を洗濯すると、マイクロファイバー（超極細の合成繊維）が放出され、最終的にそれらは川や海に流出するが、そこで分解されるまでには何十年もかかる可能性がある。マイクロファイバーは、いったん水環境に入り込むと、生物の摂食活動に影響を与えたり¹⁸、人間に害を及ぼすおそれのある侵襲性の細菌を運ぶなど、さまざまな影響をもたらす¹⁹。

今日のトレンドは明日のごみ

一般廃棄物として捨てられる衣類のうち95%は、再利用（服としての再利用、リユースまたはリサイクル）できる可能性があるとして推定される²⁰。

だが実際には、ほとんどが家庭ごみとして捨てられ、埋立地または焼却炉行きとなっている。世界全体で見ると、何百万トンもの繊維廃棄物が埋立地または焼却処分されている。これは、衣料品に含まれる資源が大量に浪費されているというだけでなく、焼却炉や埋立地から出る有害化学物質や温室効果ガスによる、さらなる汚染の原因にもなっている。

廃棄される衣類や古着は世界全体でどのくらいあるのか、最新かつ総合的なデータはまとめられていない。標準となる情報がないことから、政策立案者の関心が限定的で、ファッション業界で資源がどう使われ、どれぐらいの衣類が廃棄されているかが不透明であることが分かる。EUでは、年間150～200万トンの古着が発生するが、そのうち現地で再販売されるのは、最も良質な10～12%のみで、残りの大半は、グローバル・サウスと呼ばれる途上国に輸出されることが多い。EU全体としての数値はないが、英国ではリユースするために回収された衣類54万トンのうちの70%、米国では53%（80万トン）が輸出されている。

2000年以降、古着の輸出は劇的に増加し、2014年の流通量は430万トンに上った。主な輸出国は、米国、ドイツ、英国、韓国、日本、オランダ、マレーシア、ベルギー、中国、フランス²¹で、主な輸入国は、パキスタン、マレーシア、ロシア、インドなどだが、そうした国々が最終目的地ではない場合もある²²。例えば、インドやパキスタンでは大量の古着が再加工されたのち、アフリカに再輸出されている。

20世紀には、欧州や米国の古着は品質も良く十分な価値があったが、今は違う。その大半は、品質が悪く再販売できない。主に、合成繊維や、ポリエステルと綿の混紡が多く使われるようになったことと関係がある。また、再販売可能なものは、中国から輸入される新品の衣料品と競合する²³。さらに、輸出される服すべてがリユースされるわけではない。例えば、インドに輸出される古着のうち再販売に適するのは

わずか30%程度である、あるいは米国から輸入される特大サイズの服はアフリカでは再販売できないといった報告もある。再販売されずに残った古着は、再加工して糸状にしたのち、安価なブランケットや断熱材になる²⁴。

さまざまな理由があるが、特に地域の衣料品生産と発展を守るため、アフリカや南米、アジアを中心とする42の国が、古着の輸入に対して何らかの制限や禁止措置を設けている²⁵。東アフリカ共同体のブルンジ、ケニア、ルワンダ、タンザニア、ウガンダといった国々による輸入禁止措置は、将来的に英国からの輸出に影響を及ぼすおそれがある^{26, 27}。

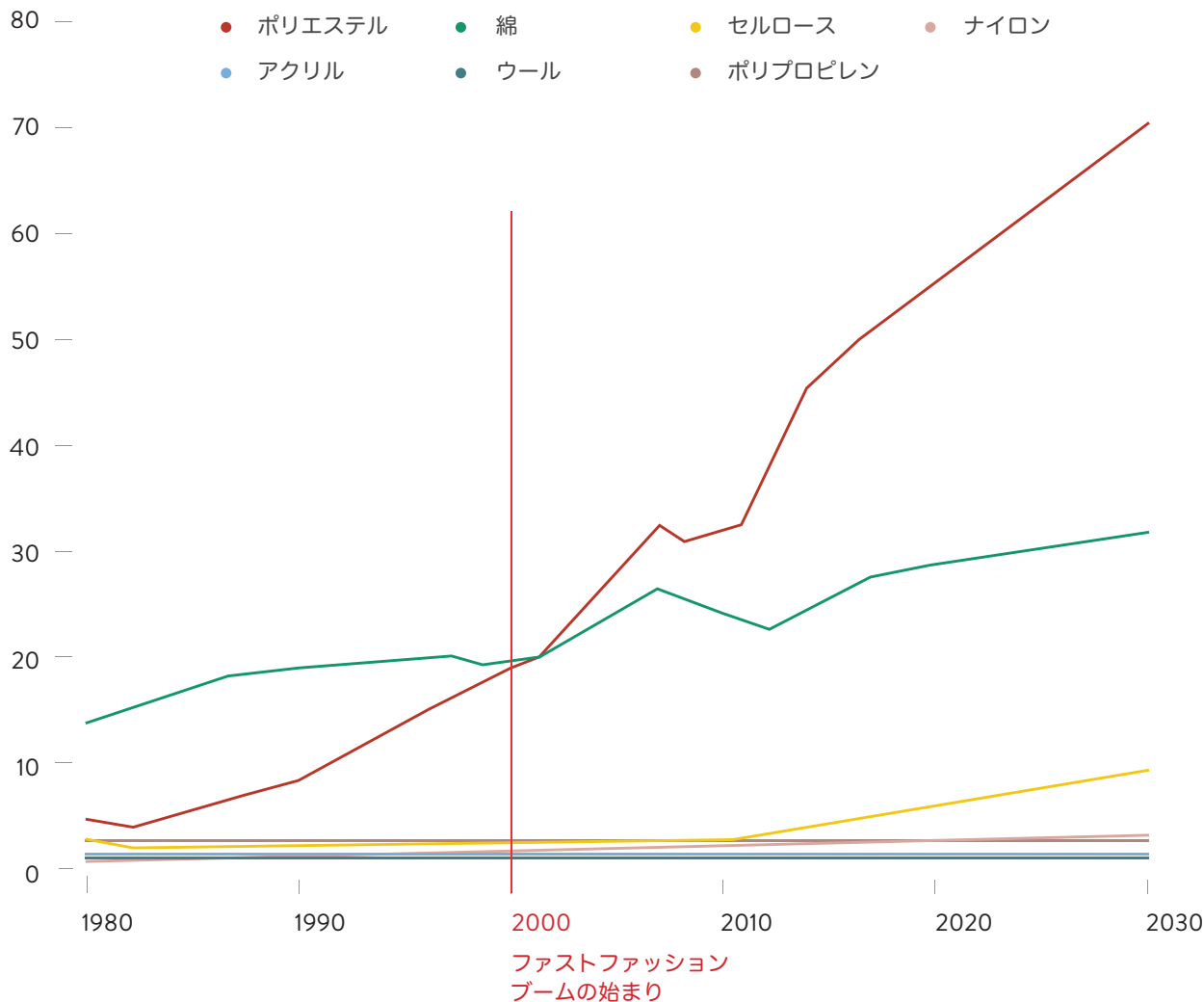
米国の最近の報告にあるように、古着の流通システムは崩壊寸前で²⁸、ファストファッションの安価な衣料品の品質の悪さがその一因となっている。英国からの輸出は2014年に頭打ちとなった。英国の繊維リサイクル協会のアラン・ホイラー会長は次のように話している。「衣料品の品質低下が続き、国際市場の需要がさらに落ち込み、クローズドループ・リサイクル（製品を素材や原料としてリサイクルし続ける）技術が確立されなければ、私たちは『古着の危機』に直面するかもしれません。そうなれば、着古した安価な服を引き取ってくれる場所はどこにもなくなるでしょう」²⁹

リユースとリサイクルに関する神話

では、リユースされない服はどうなるのか？ ポリエステルや、ポリエステルと綿の混紡を原料とする衣料品が増えるにつれて、雑巾や断熱材として利用される低品質な衣類の量が増えているが、その半分は取得価格以下で販売されている。だが、このようなダウンサイクル（物の価値を下げてしまうリサイクル）は一時しのぎの解決策で、雑巾や断熱材もやがて廃棄物となる。

着古した衣服を家庭ごみにしないために、できることはもっとたくさんある。素材がきれいに保たれれば、リユースやリサイクルできる服を増やすことができるだろう。しかし最終的には、繊維をリサイクルして新品の服を作る原料にすることで、ループを閉じて資源を半永久的に循環させなければならない。

ポリエステル — ファストファッションでの多用で需要が増加



世界の繊維需要の増加 — 百万トン
 紡織繊維の43.5%が衣料品に — グラフ出典：Textile World (2015年)

さらには、必要な服を大切に使い、デザインからリユースまたはリサイクルまですべての段階を考慮して、衣料品が供給される仕組み全体を考え直すことで、消費ペースを落とさなければならない。

現時点では、紡織繊維のリサイクルを通じた、資源の半永久的な循環の実現にはほど遠い。綿（およびウール）のメカニカルリサイクル（衣類を解いて、繊維レベルまで分解する）の方法は確立されている

が、これには品質の低下が伴う。合成繊維のリサイクルはそれよりはるかに限定的で、現時点で合成繊維のケミカルリサイクルを行っている企業はほんの数社しかない。天然繊維のケミカルリサイクルも可能で、一部のスタートアップ企業は、使用済みの綿を加工して、化学処理したセルロースの一種のリヨセルに似た繊維品を作っている³⁰。

現在、ケミカルリサイクルに大きな関心が寄せられ、研究も数多く進められているが、現時点ではどの技術も事業として採算が取れるものではない。主な理由はおそらく、ケミカルリサイクルされた再生繊維は、バージン素材に比べて価格が高くなるためである³¹。

混紡生地 of 廃棄物のリサイクルには、重大な障壁が立ちだかる。繊維のリサイクルを妨げる技術的な問題として以下が挙げられる：

- ・ 衣料品の複雑性。ステッチ部分と縁取り部分では素材が違いうように、複数の異なる生地が使われていることが多い。また、加工の前には、ボタンやファスナーなど繊維部分以外は取り外さなければならず、染料やコーティング剤、プリント部分はさらなる問題の原因になる。
- ・ 衣料品における綿・ポリエステルなどの混紡生地の利用の増大。見た目も着心地もウールに似た服でも、ナイロンやビスコースといった合成繊維が50%以上含まれているケースもある。

こうした混紡生地は、事前に繊維区分の異なる素材の分離を行わなければ、ケミカルリサイクルできない。ポリエステル・綿の混紡生地の場合、ポリエステルがアルカリ条件下で分解するため（ただし、綿は分解しない）、技術的には分離は可能だが、その方法についてはまだ試験段階である。他の混紡生地で、特にエラストインを含む場合、分離はさらに難しくなる³²。

こうした技術的な課題を克服できたとしても、廃棄を前提とした現在の仕組みは、資源循環の妨げとなる³³。「衣料品はリサイクルまたはリユースされる」という神話が、消費を後押ししかねないのだ。使い捨ての物質主義ではなく、私たちが必要としているのは「真の物質主義」だ。すなわち、「原材料（物質）がほとんど大切にされない消費社会から、原材料 — そして、それを生み出す地球環境 — が大切にされる真の物質主義社会への移行」である³⁴。

結論：ファッション産業の最盛期はもう終わってしまったのか？

私たちは、ファストファッションへの依存を終わらせなければならない。これは、環境のためだけでなく、私たち自身を救うことにもなる。徹底的な情報開示とサステナビリティにこだわるファッションブランド『Zady』の共同創設者マキシム・ベダットはこう話す。「消費者は限界に達しつつあります。安価な服で満たされた気になるというのは確かですが、そういう安物の服ばかりが山積みになっていくのを見て精神的に疲弊もしているのです。（中略）今の仕組みは破綻していますし、消費者は変化を強く求めています」³⁵

私たちがまず手軽にできるのは、手持ちの服を長く着ることだ。手入れをして、修理する。着こなし方を工夫したり、別の物にリメイクする。友人と交換したり、譲ったりするのもいい。服を長く着るだけで、環境へのあらゆる影響が軽減される。温室効果ガスについては、「耐用年数が1年から2年に倍増すれば、年間の排出量を24%削減できる」³⁶。また、古着の購入も同様だ。バージンコットン1キログラムが古着に置き換えられるたびに、約65kWhの節電になる。ポリエステルの場合は、1キログラム当たり90kWhの節電になる³⁷。

自分のワードローブでショッピングを楽しむようにすでにあるものを活用したり、古着を買ったりすれば、私たちはこうした影響の軽減に直接貢献することができる。新たに購入する必要があるときには、環境に配慮した商品やフェアトレード商品から探すこともできる。耐久性の基準を確認すれば、長持ちする服を選ぶことができる。しかし、ファッションブランドやアパレルメーカーこそ、ファストファッションの仕組みを、地球の限界、そして顧客のニーズや関心を考慮した仕組みへと転換するために、より大きな責任を果たすべきだ。

一部の有識者は、ファストファッションの将来的な経済継続性に警鐘を鳴らしている。「全体として見れば、現在のやり方を続けていけば、深刻な資源不足に陥り、資源価格は非常に変動しやすくなる。（中略）結果的に、ファッション業界のさまざまなビジネスモデルの利益や成功も脅かされることになるだろう」³⁸

良質な服を作らなければならない。耐久性があり、顧客のニーズに応え、修理やリユースが可能で、寿命を終えたら完全にリサイクルできる、そして顧客に長年愛される商品だ。そのような変化をもたらす、顧客にも新たな意識を促すには、製造から販売、各種サービス、リユース・リサイクルの仕組みに至るまで、新たなビジネスモデルが必要となる。

持続可能なファッションの仕組みが実現すれば、「ループを閉じて」資源を半永久的に循環させられると同時に、ファッションの仕組みそのものをスローダウンすることができる。サプライチェーンから顧客へ、そしてまた原料としてサプライチェーンに戻るといった持続的に循環する流れの中で、さまざまな変化を生み出す新たなビジネスモデルこそ、未来にふさわしい唯一のファッションのあり方である。



参考文献

1. Muthu (2014), Roadmap to Sustainable Textiles and Clothing: Environmental and Social Aspects of Textiles and Clothing Supply Chain, Springer Science and Business Media, Singapore 2014 Editor Subramanian Senthilkannan Muthu, SGS Hong Kong Limited.
2. Martinez de Albeniz, Felipe Caro Victor (2014), **Fast Fashion: Business Model Overview and Research Opportunities**, April 25, 2014.
3. Martinez de Albeniz, Felipe Caro Victor (2014), op.cit.
4. Source for 2002 - 2015 data, Mc Kinsey & Company, Succeeding in tomorrow's global fashion market, 2016. Consumer and Shopper Insights, September 2014, Euromonitor data. Source for 2025 data, **Statistica**
5. McKinsey & Company (2016), **Style that's sustainable: A new fast-fashion formula**. By Nathalie Remy, Eveline Speelman, and Steven Swartz, October 2016.
6. Muthu (2014), op.cit.
7. Textile World (2015), **Man-Made Fibers Continue To Grow**, February 3, 2015. Calculation based on figure 2 - % age of fibres for apparel is 43.5%, interior and home textiles 33%, industrial and technical textiles 23.5%. Teonline, **Industry overview**, figure 4.
8. Textile World (2015), op.cit. Calculation based on figure 2 and slide 27, 43.5% is apparel.
9. **Fashion Metric blog (2016), The Current State of Apparel eCommerce in 2016.**
10. Kingdom of the Netherlands (2014), **CHINA'S FASHION INDUSTRY, An overview of trends, opportunities, and challenges, 2014**
11. The Atlantic (2015), **The Neurological Pleasures of Fast Fashion.**
12. McKinsey & Company (2016), op.cit.
13. Environment Agency, UK (2013), **Nonylphenol ethoxylates (NPE) in imported textiles.**
14. Muthu (2014), op.cit.
15. Carbon Trust (2011), **Clothing - International Carbon Flows (CTC793)**
16. Textile World (2015), op.cit., Calculation based on figure 1, 43.5% is apparel
17. Kirchain R, Olivetti E, Miller T R, and Greene S (2015), **Sustainable Apparel Materials, An overview of what we know and what could be done about the impact of four major apparel materials: Cotton, Polyester, Leather, & Rubber**, October 7, 2015. Materials Systems Laboratory | Massachusetts Institute of Technology | Cambridge, MA

Figures are based on the following: "Over 706 billion kilograms of greenhouse gas can be attributed to polyester production for use in textiles in 2015 (based on the current marketplace, estimating that 80% of polyester production goes into textile and including both textile yarn and staple fibers, which are the primary types of polyester produced)." Using the same %age of use in apparel as the authors use for cotton (below) of 40%, 282 b kg CO2 is a conservative estimate for polyester. Total GHG emissions for cotton are calculated as follows: "In 2013, 25 billion kilograms of cotton was produced worldwide. Approximately 40% of that, or about 10 billion kilograms, was used in making apparel. At that scale, the estimated cradle-to-gate impact of cotton used within the global apparel industry is 107.5 million tons of CO2-eq" (equivalent to 97522 million kg/ or 98 billion kg.)
18. Watts, A., Urbina, M., Corr, S., Lewis, C. & Galloway, T. 'Ingestion of plastic microfibers by the crab *Carcinus maenas* and its effect on food consumption and energy balance.' *Env. Sci. Technol.* 49, 14597-14604 (2015)
19. McCormick, A., T.J. Hoellein, S.A. Mason, J. Schlupe, and J.J. Kelly. "Microplastic Is an Abundant and Distinct Microbial Habitat in an Urban River." *Environmental Science & Technology* (2014): 11863-1871.
20. Lu JJ & Hamouda H (2014), **Current Status of Fiber Waste Recycling and its Future**. *Advanced Materials Research* (Volume 878), pp. 122-131, 2014
21. WRAP (2016), **Textiles Market Situation Report 2016** Note: trade from the Netherlands and Belgium may include used clothes from other European countries in transit
22. FASH455 Global Apparel & Textile Trade and Sourcing (2015), **Global Trade of Used Clothing (Updated: October 2015)**, Dr. Sheng Lu, Department of Fashion & Apparel Studies, University of Delaware; (2015).

23. Newsweek (2016), **Fast Fashion is Creating an Environmental Crisis**, 1st September 2016.
24. Wall Street Journal (2016), **Fast-Fashion Castoffs Fuel Global Recycling Network - Deluge of secondhand clothes from rich countries is processed, resold in the developing world**, June 26, 2016
25. International Trade Association, Office of Textiles and Apparel (OTEXA), **U.S. Trade Data on Worn Clothing and Textile Products**.
26. Guardian (2016), **East Africa's ban on second-hand clothes won't save its own industry**, Andrew Brooks, 4th May 2016.
27. WRAP (2016), op.cit.
28. Newsweek (2016), op.cit.
29. Waste Management World (2016), **WRAP Report: Falling Overseas Reuse & Recycling Demand for UK Textile Exports**, 08.03.2016 16:24.
30. The Guardian (2015), **Waste is so last season: recycling clothes in the fashion industry**, Hannah Gould, Thursday 26 February 2015.
31. Peterson, Ann (2015), **Towards Recycling of Textile Fibers**. Chalmers University, Gothenburg 2015.
32. ECO TLC (2014), **Étude des perturbateurs et facilitateurs au recyclage des textiles et linges de maison**.
33. Fastcoexist (2016), **The fascinating psychology of why and what we choose to recycle**. August 2016.
34. Fletcher, Kate (2016), **Craft of Use - Post-Growth Fashion**, Routledge, April 2016, page 141.
35. Maxine Bédard (2016), **Our love of cheap clothing has a hidden cost – it's time for a fashion revolution**, 22nd April 2016, World Economic Forum.
36. Carbon Trust (2011), op.cit.
37. Lu JJ & Hamouda H (2014), op. cit.
38. Muthu (2014), op.cit.

※ 本報告書中の「ドル」は米ドルを意味します。

著者：Madeleine Cobbing、Yannick Vicaire

写真：Steffen Hofeman

GREENPEACE

発行：

国際環境NGOグリーンピース・ドイツ（2016年11月）

www.greenpeace.org/international/en/campaigns/detox/fashion

日本語版制作・発行：

国際環境NGOグリーンピース・ジャパン（2020年10月）

〒160-0023 東京都新宿区西新宿8-13-11 NFビル2F

Tel. 03-5338-9800 Fax. 03-5338-9817

www.greenpeace.org/japan/

グリーンピースは、環境保護と平和を願う市民の立場で活動する国際環境NGOです。問題意識を共有し、社会を共に変えるため、政府や企業から資金援助を受けずに独立したキャンペーン活動を展開しています。